



Step 1 家系図と家族年表を作ってみよう

こんにちは エンディングノート・ナビゲーターの江本です。
さあ、今回よりエンディングノート書き方講座が始まります。
ぜひ最後までお付き合い下さい。

では、最初のテーマは・・・「家系図と家族年表を作ってみよう」です。

まず、多くの方がエンディングノートや遺言を書くことに躊躇するのは、自分の未来を予想することが、心理的にかなり辛い作業だからです。どうしても、自分の最後を創造するなんてイメージ的に
暗い！ 悲しい！ 苦しい！

そんなイメージを持っていますからね。

そのために、多くの方がエンディングノートや遺言を書くことに抵抗があるのだと思います。

ですから、なんとかその最初の心のハードルを取っ払うために、少し遠回りかもしれませんがエンディングノートを書く前にやっていただきたいことがあります。

「こんなことが、エンディングノートと何の関係あるんだ！」と思われる方も多いかもわかりませんが、「急がば回れ！」

結局 多くの方にエンディングノートを書いてもらうことをお勧めしているうちに

この 「スタートラインがずれているから書いてもらえない？」

と感ずることが多いからです。ですから、ぜひ 騙されたと思ってお付き合い下さい。

では早速 始めましょう！



【自分のルーツ】を辿ってみよう！

家系図を作ってみる！

作る目的：相続関係人の洗い出し

自分の未来を楽観的に想像してみる。

家系図を作ってみよう！

「拙者のご先祖様は 江戸時代には長州藩の武士でござったでござる！」

「それがしご先祖様は、鎌倉時代に活躍した●衛門でござる！」

なんて遙か昔にまで遡ることは必要ありません。（笑）

あなたのお父さん お母さん おじいちゃんやおばあちゃん おじさんやおばさん

さらには従兄弟（いとこ）や甥や姪

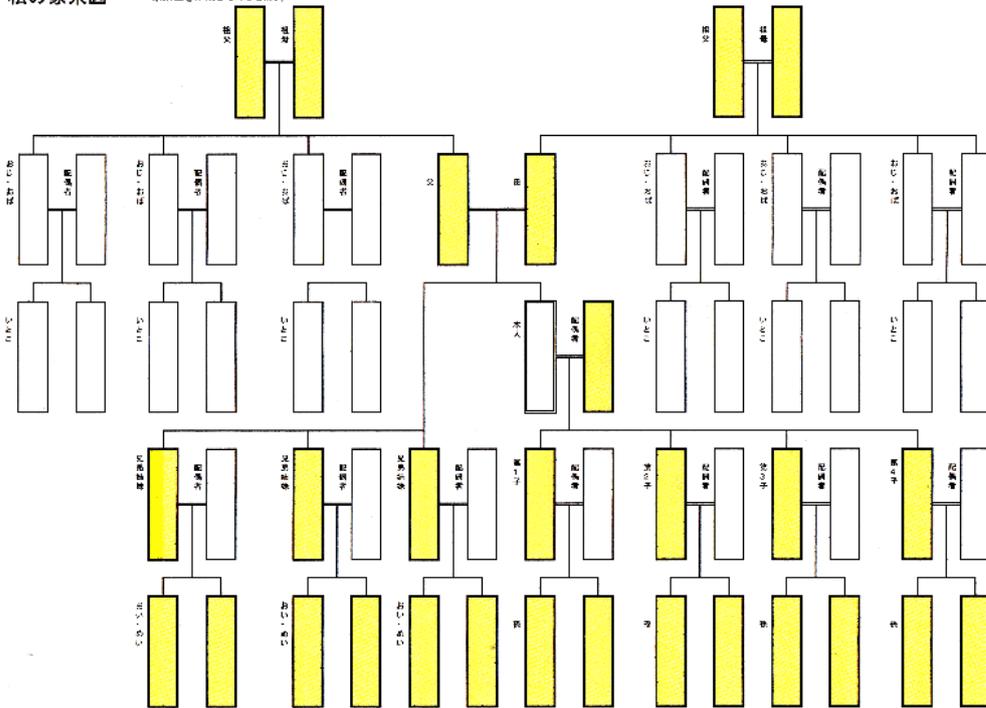
これをまず家系図に落とし込んでみて欲しいのです。

自分で紙に書いてもかまいませんが、こんな家系図作成用の雛形をご用意しましたのでダウンロードしてみてください。

<イメージ図>

私の家系図

家系図を作成してみましょう。

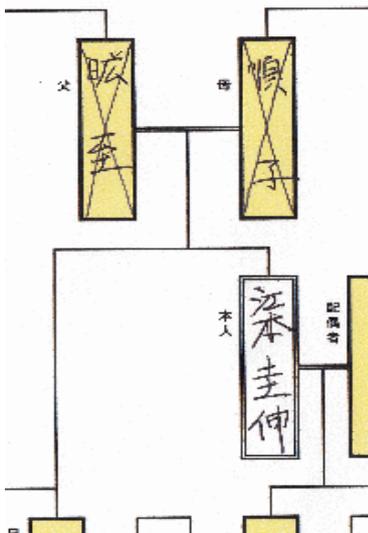


提供:エンディングノートナビゲーター 江本圭伸 Tel:08-8787-4055 HP: <http://momenaisuzoku.net/>

では、ここに本人を中心として

おとうさん おかあさん おじいちゃん おばあちゃん おじさん おばさん 従兄弟 (いとこ)
甥や姪 順次 書き込んでみてください。

書き込めたら、亡くなった方に × をつけてください



書きこんだら、失礼ながら既に亡くなっている方の欄を × をつけてみてください。

← こんな風に

既に私の場合は、父も母も亡くなっています。(涙)

「もっと親孝行しておけばよかった！」と後悔ばかりしている私は本当に親不孝者です。

家系図で枠が黄色の部分がありましたよね？ それが・・・？

家系図の枠が黄色の方は相続関係人になる可能性のある方です。

少しだけ解説しておく

亡くなった方から見て

第1順位 配偶者・・・ご存命であれば、必ず相続関係人になります。

第2順位 直系卑属・・・つまり「子供」 もし、その「子供」の中で亡くなっている方の権利は「孫」へと順次 下へと相続する権利が移っていきます。（代襲相続）

通常はこういう場合なのですが、イレギュラーな場合として

【亡くなった方に子供が1人もいない場合】

第3順位 直系尊属・・・つまり「親」 お父さん、お母さんに相続する権利があります。

さらに、

【亡くなった方の親が既に両方とも亡くなっている場合】

第4順位 傍系尊属・・・つまり兄弟姉妹に相続する権利があります。

その中で亡くなっている方の権利はその子供（亡くなった方からみれば甥や姪）に相続する権利があります。

相続する割合などは、各ケースで異なってきます。

詳しくは税理士や弁護士などの専門家に聞いてみてください。

「あんな奴はもう勘当したから関係ない！」 「もう つきあいもなく行方も知らない！」といわれても困ります。

よくご相談を受けて困るのが、「あんなやつはもう勘当したから関係ない！」

「前妻の妻にも子供もいましたが、亡くなった主人はきちんと養育費も支払ってきましたし、

できるだけのはやってきました。 主人や私とも、もう何十年も会ってもいないし、連絡先も知りません。なのに相続に関係があるなんてひどい！」

とお叱りを受けることもあるのですが、法律的にはそうなってしまいます。

相続する権利のある方をしっかりとご理解されてからエンディングノートを書いてください。

まわりを見渡してみると、自分のことがわかる

まず少し質問させてください。（イエス または ノー でお答えください）

質問（1） 人間は歳をとってくると病気を発症しやすくなる？ （Yes or No）

質問（2） 人間は歳をとると物忘れが判断力や決断力が鈍くなっていく？ （Yes or No）

質問（3） 人間はいつか死んでしまう？ （Yes or No）

いかがですか？

ほとんどの質問は Yes ですね？

では自分に置き換えて考えてみると・・・

素直に Yes とはえられ答ないですね。

では、質問を変えましょう！

あなたのお父さん お母さん おじさん おばさんはどうでしたか？

人間が自分のこととなると、どうしても悪い未来を予想しようとするのを避けたいくなります。

ですから、質問を変えてみます。

エンディングノートを書こうとしているのですから、あなたはある程度のご年齢だと思います。

それをふまえてご質問します。

では、

お父さん お母さんは

- 「どんな大きな病気にかかりましたか？」
- 「いつ頃から介護が必要になりましたか？」
- 「いつくらいからちょっと認知症気味になりましたか？」
- 「亡くなった年齢は？その原因となった病気は？」

さらに上の世代である

おじいさん、おばあさんは

- 「どんな大きな病気にかかりましたか？」
- 「いつ頃から介護が必要になりましたか？」
- 「いつくらいからちょっと認知症気味になりましたか？」
- 「亡くなった年齢は？その原因となった病気は？」

さらにより範囲を広げて

おじさん、おばさんは

- 「どんな大きな病気にかかりましたか？」
- 「いつ頃から介護が必要になりましたか？」
- 「いつくらいからちょっと認知症気味になりましたか？」
- 「亡くなった年齢は？その原因となった病気は？」

ここで、漠然とイメージだけではなく紙に書いてみましょう！

